

魅力ある学校づくり訪問日記⑩（平成22年2月3日・水曜日）

【特別支援教育に係る校内授業研究会】

4時間目に通級指導教室（ことば）、5時間目に特別支援学級（なかよし）の研究授業がありました。午後から参観させていただいたので、残念ながら通級指導教室の授業は見ることはできなかったのですが、5時間目の授業と事後の研究会には参加することができました。

《5時間目の授業の感想》

◆ 特別支援学級「生活単元学習・大型絵本を作ろう」 三原三主子先生・澤田泉子先生・青木和美支援員さん

特別支援学級においても、積み重ねて指導されてきた「話す・聞く」に加えて、今回は「読み」も重視した取組でした。はじめて指導案を読ませていただいた時、子どもたちにとっては難しいかなあと感じていましたが、子どもたちの姿（育ち）にびっくりしました。授業がとても短く感じられるほど、8名の子どもたちと同じように、最後まで気持ちよく、なかよし学級での時間を過ごすことができました。

以下、感じたことを記してみたいと思います。

- ・ 45分間、8名全員が集中している。
- ・ 先生や話や友達の発言をよく聞いている。
- ・ つぶやきもあり、声が出ている。
- ・ 発表できる子どもが多い（発表の話型も意識している）
- ・ 進んで発言したり、前に出て発表したりして、学びをリードする子どももいる。
- ・ 見たり聞いたりして理解するインプットと自分の考えを表現するアウトプットのバランスがよく、一斉指導及び対話が成立している。
- ・ 担任の先生が学習者モデルとなり、子ども達により刺激を与えている。
- ・ TTや支援員さんの支えが習慣化していて、子どもたちが安心して学べる環境が整っている。
- ・ 子ども達一人ひとりの実態に応じた学びへの願いや手立てを大切にされている。
- ・ 教材が身近でわかりやすく、視覚的に理解できる工夫がなされている。

このような、なかよし学級における先生方の支援を通した一人ひとりの子どもの育ちが、今後いろいろな場面で自信を持って自分らしく生活していく力強い姿へと広がっていくと思います。



《研究会の感想》

佐賀県教育センター所員の木田啓二先生を招いての研究会でした。

訪問させていただくたびに感じるのですが、先生方の雰囲気がよく、共通理解を図り、今後につながる研究会であったように感じました。

研究会の中で、通級指導教室担任の山口澄江先生が、「なんだか、来年もがんばろう！！という気持ちになった1日でした。」といわれました。実践の手ごたえを実感し、これからへの希望をふくらませる素敵なお発言だと思い、強く印象に残りました。

嬉野小学校の校内研究会のスタイルは、子どもたちと同様に、対話を取り入れたものです。今回も、グループで意見交換をした後、それぞれのグループから主に以下のことが全体に報告されました。（私の感想と重なる点ははぶいています）



- 教材の絵本に力があつた。選択する上でのポイントは？
- 視覚的な支援の大切さが伝わった。
- 自分の学級に関係する子どもが自信を持って成長していている姿を見ることができてとても嬉しい。
- なぜ8名全員が最後まで集中して学べていたのかを明らかにしたい。
- 一人ひとりの実態を正しくつかんで、個々への手立てを明らかにして支援することの大切さについて。
- 一人ひとりの実態に応じた表現の多様性に配慮し、表現する出番を用意することの大切さについて。
- 日々の交流学級とのつながりについて。
- 今後の指導計画、展開について（一人ひとりの子どもの実態に合った、どのような表現活動が組み込まれているのか）
- 個々の子どもへの対応として、1年間の見通しと着地点の見極めについて ・・・・など

《その他》

校長室に入ると、特別支援教育コーディネーターの山口淳子先生が時間を惜しんで熱心に講師の先生から専門的なアドバイスを受けていらっしゃいました。アドバイスを受けた山口淳子先生は「アドバイスしていただいたことを保護者にすぐに伝えたい」とおっしゃっていました。保護者と直接お話されることも多いとは思いますが、保護者と担任との交換ノートの実行も続けられているそうです。個々の子どもの成長のために、保護者と連携して取り組んでいくことはとても大切なことだと思います。今後も外部の関係機関との連携を子どもや保護者との関係づくりに生かしていただきたいと思います。

通級指導教室の指導案の表紙についていた文章がとてもよかったので一部を紹介したいと思います

～ ことばの教室紹介 ～ “ よく聞こう たくさん話そう ”

ここで休んでいきませんか 少しお話ししませんか

昨日見た夢の話や 明日のお天気のこと 風の走る姿や 光のこぼれ具合について

そして あなたがどこから来て どこへ行くのか なども・・・

ゆっくり ゆっくり うなずき合って しばらく一緒に 過ごしませんか

「のはらのうた」より くどうなおこ

一人対一人 または ペアで 相対して過ごすひととき

ことばの教室では、そのままの自分を出してほしいのです。

もっている課題はそれぞれ異なりますが、

苦手なことは、どうとらえ対応していけばよいかを一緒に考えて取り組んでいきたい。

得意なことは、声を大きくして教えていきたい。

そして、さらに伸ばして自信をもたせたい、と、願い接しています。

ことばの教室を出る児童の後ろ姿に「ここで過ごして良かった？」「気持ちがよくなったかな？」

「この子の役に立っているかしら」・・・と、過ごした時間を振り返りながら、つぶやいています ～

嬉野小学校に在籍する特別な支援を必要とする子どもたちのすこやかな成長を願い、これからも、このすばらしい特別支援教育チームの取組をさらに充実させていってほしいと思いました。個別の教育支援計画や個別の教育指導計画と日々の取組をどのように関連付けていくのか、指導案においてどのように関連付けていくのか等も大切になってくる部分だと思います。

最後になりましたが、今回、訪問して「学校の魅力とは何か？」ということについて改めて感じたことがあります。「その学校の魅力とは、その学校の子どもたちの魅力であり、先生方の魅力にほかならない」ということです。これからも、保護者や地域、関係機関との連携を通して、嬉野小学校の「魅力」をさらにふくらませていただきたいと大きな期待を寄せています。